

伎舞歌森黒 りよだ会存保

二〇〇九年
二月一日号

平成二十年十一月二十二日・二十三日
埼玉県のJR大宮駅構内で開催された
「まるきた伝統空間」へ出演しました。



菅原伝授手習鑑 車引きの場



近江源氏先陣館 盛綱陣屋の場

平成二十年十一月八日・九日
茨城県で開催された「国民文化祭いば
らき」に出演しました。

正月公演 酒田公演 開催!

今年も黒森歌舞伎正月公演(二月十五日・十七日)と酒田公演(三月一日)を開催します。

今年の本狂言の演目は「吉例寿曾我(昭和六十年以来、二十四年振りの上演)」と、「鎌倉三代記(昭和五十四年以來、三十年振りの上演)」です。

現在、公演に向けて、座員は稽古に励んでいます。佐藤進一座長は、「昨年の茨城県、埼玉県での公演では、皆様より大変高い評価をいただくことができました。しかし、私たちはおごることなく、更により芝居をつくるために、一生懸命稽古に励んでおります。ぜひ、公演を見にきてください」と語ってくれました。

今回の舞台には、新しい衣裳とかつらがいくつか登場します。これは、黒森歌舞伎がご支援をいただいている財団法人東日本鉄道文化財団からの助成で購入したものです。どんな衣裳が出てくるか、こちらも楽しみなところですよ。

また、黒森小学校児童たちの稽古もスタートしました。小学校四年生以上の女子児童は少年太鼓、小学校五年生以上の男子児童は少年歌舞伎に取り組みます。十年目を迎えた少年太鼓では、今回二つの太鼓を新調しました。十二年目を迎えた少年歌舞伎は今年も「白浪五人男」です。六年生男子がちょうど五人ということ、息の合った五人男の演技が見

られそうです。

昨年は、歌舞伎俳優の中村吉右衛門さんから黒森小学校へきていただいた、歌舞伎の実技指導を受けるといって、素晴らしい体験ができたこともあり、児童たちは一生懸命に稽古に励んでいます。ご期待ください。



少年歌舞伎の稽古。

酒田公演は、屋内での公演です。温かい屋内でゆっくり鑑賞したいという方は、ぜひ酒田公演においでください。

黒森歌舞伎の一年

(これまでの活動と今後の予定)

◆平成二十年

3月9日

【太夫振舞】神饌の儀が行われ、演目は「吉例寿曾我」「鎌倉三代記」に決まりました。

選者は、役者の佐藤辰さんが行いました。

4月28・29日

【春例大祭】黒森地区の春祭りが盛大に行われ、地域の子どもたちが演目紹介の山車行列として村中を練り歩きました。妻堂連中は花見総会を行い、一年の活動について話し合いました。

8月3日

【虫干し】衣裳をすべて出して、神社境内いっぱいに広げて虫干しをしました。

8月14日

【お面開き】神霊が宿るとされる翁面と三番叟のお面を箱から出して、神事を行いました。

12月13日

【役割】正月公演の配役を決めました。

12月20日

【本読み】正月公演の台本を読み合わせしました。

ます席 特製弁当 販売します

ます席で黒森歌舞伎をゆつくり楽しみませ
んか？ 一枈は四人分で、特製歌舞伎弁当や
おみやげも付き、湯たんぽ、ひざ掛けも貸し
出します。費用は、一枈一万円(当日持参)
で、一日につき八枈です。

また、昨年好評だった特製歌舞伎弁当も販
売します。費用は、九百円(当日持参)で、一
日につき三十個(事前予約可)です。

いずれも申し込みは、電話で黒森公民館(0
234-92-2255)へお願いします。

【平成21年正月公演】

2月15日(日)・17日(火) 会場:黒森日枝神社境内

10:00～少年太鼓、神事

12:00～少年歌舞伎「青砥稿花紅彩画」

13:00～本狂言「吉例寿曾我」

二番狂言「鎌倉三代記」

16:00頃終了予定

※入場無料

※客席は屋外です。防寒対策のうえ、お越してください。

【平成21年酒田公演】

3月1日(日) 会場:酒田市民会館「希望ホール」

12:00～少年太鼓、少年歌舞伎「青砥稿花紅彩画」

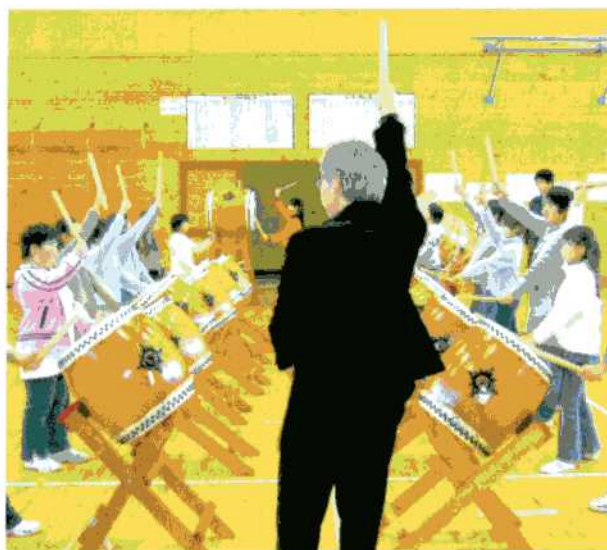
13:00～本狂言「吉例寿曾我」

二番狂言「鎌倉三代記」

16:00頃終了予定

<入場券>前売り500円、当日700円

※前売り券は、酒田市総合文化センター事務室・
酒田市民会館「希望ホール」事務室などで取り
扱います。



少年太鼓の稽古。

◆平成二十一年

1月10日

【地固め】本格的な活動の開始です。今後
の稽古日程が発表されました。

2月3日

【節分】豆まきと今年の天気占いをします。

2月8日

【おさらい】通し稽古を行い、動きやセリ
フを確認します。

2月13日

【花道づくり】地域の方々が、神社境内へ
花道を組み立てます。

2月14日

【寄せ太鼓】神社境内で、地域の子もた
ちが大入り祈願と歌舞伎の宣伝のために、
太鼓を打ち鳴らします。

【あご別れ】公演の最終確認と成功祈願
を行います。

2月15日・17日

【正月公演】演舞場で2日間にわたり、公
演を行います。

2月18日

【勘定】公演の経費を精算します。

3月1日

【酒田公演】酒田市民会館で公演します。

3月8日

【太夫振舞】/ 来年の演目を決める神饌
の儀を行います。

吉例壽曾我

工藤館対面の場

【物語】

工藤祐経は將軍源頼朝の信頼が厚く、一騰職（武者所の上席）を賜り、五月に催される富士の裾野の総奉行に任ぜられた。舞台はその祝宴の当日の工藤館、梶原景時、影高父子を始めとして大名や小名がお世辞たらたらとへつらう。大磯の遊郭から傾城の虎、化粧坂の少将らも招かれている。



昭和46年の上演の写真。

小林朝比奈は二人の兄弟の目通りを工藤に頼む。工藤が許すと朝比奈の呼び出しに応じ、十郎、五郎兄弟が祝儀の島台を掲げて登場する。

その面差しが河津三郎祐泰（兄弟の実父）に似ていると、工藤は言う。この河津の姓は、母が夫の死後曾我祐信に再嫁したので、兄弟も曾我と姓が変わった。

工藤は機をみて兄弟に盃を与える。優美な十郎は受けるが、血気にはやる五郎は、「親の敵と名のれ」と迫る。しかし工藤は悠然として、紛失した源氏の重宝「友切丸」が出ないうちは囚人同然、敵討ちも叶わないと言いつつ。兄弟は悔しがるが、そこへ曾我家の忠臣鬼王新左衛門が友切丸を持って駆けつける。

五郎はいきり立つが、工藤は富士の裾野の巻狩りの総奉行、役目をつとめお世話ならば、討たれてやることを約束し、二人に狩場の通行切手を年玉に贈って別れる。

【見所】

五郎、十郎は父の敵の顔も知らない。その敵の顔を初めて見た、その出逢いの「対面」がドラマです。この儀式的な一幕には、歌舞伎の約束事や様式美が見事に凝縮されています。

一座の顔ぶれが全て役にはまっています。座頭の立役が工藤、和事の十郎、荒事の五郎、立女形の大磯の虎、二枚目の女形の化粧坂の少将、実事の鬼王、道化役の朝比奈、敵役の

梶原父子、十郎につづく二枚目立役の八幡、敵役の二枚目の近江…といったように網羅されています。



昭和46年の上演の写真。

鎌倉三代記

絹川村閑居の場

「鎌倉三代記」は「大阪夏の陣」を脚色しています。徳川幕府を憚ってか、世界を鎌倉幕府にかえています。「近江源氏先陣館」の続編で同じ作者による作品と考えられています。

変名の関係は次の通り。

京都方—大阪豊臣氏
北条時政—徳川家康

鎌倉方—江戸徳川氏

源 頼朝—豊臣秀頼

坂本城—大阪城

佐々木高綱—真田幸村

